北名古屋市の未来を考える

第４回

2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業が北名古屋市にどのような影響を与えるのか、それに向けてどのようなまちづくりをしていくべきなのか、４人の有識者のお考えを伺いました。今回からは、市民のみなさんに北名古屋市の将来を考えていただく参考として、その概要をお伝えしていきます。

竹内 伝史 氏
（岐阜大学名誉教授）

【略歴】運輸省、名古屋大学工学部助手（土木工学科）、中部工業大学（現中部大学）工学部教授を経て、岐阜大学地域科学部教授。同大学退職後、名古屋都市センター研究顧問などを務め、地域問題研究所理事
【専門分野】交通計画、地域計画など

リニア中央新幹線整備に伴う名古屋圏の位置付け

○東海道新幹線とリニア中央新幹線が交差するのは、名古屋駅だけという意味は大きい。名古屋駅周辺地区は、東京・首都圏の一部になり、西日本への玄関口として一大拠点となる。

○さいたま新都心のように、名古屋市が首都圏の副都心というイメージになり、企業や中央官庁が名古屋市で会議を開催することも想定される。そのためには、会議室はもちろん、ホテル、食事、コピー機やIT機器の貸出サービスなどが必要であり、さまざまな都心的機能を整える必要がある。

○東京で直下型地震が発生した場合に首都機能をバックアップするのは、大阪市、名古屋市、仙台市のいずれかになる。名古屋市が今後、強化しなければならない都市機能のうち、何を北名古屋市が分担できるのかを考えることが必要である。

北名古屋市がリニア中央新幹線開業の効果を生かすための取組み

○北名古屋市の住宅地は昔から、必ずしも良い居住環境とは言い難い。これからは産業を誘致するとともに、ゆとりある住宅地をセットで持つことが大事である。住宅地の整備は、名古屋市内や周辺地域との競争になるため、特色あるものを考えていく必要がある。

西春駅の拠点性の強化

○歩行者、自転車、自動車を分離する街路整備が良い居住環境につながる。西春駅にそのような道路が集まっていると、良いまちができる。

○駅の周辺だけでなくても、歩いて数分の場所を拠点として土地の有効活用ができれば良い。

○市役所を駅前や駅に置くことは、まちをコンパクトにしていくためには良い。

○名鉄犬山線は幹線であり、江南市では連続立体交差事業も進んでいる。西春駅の拠点性を高めるとともに、東西の動線も重要である。

交通基盤・地域交通の充実

○名古屋駅との連携を考える場合には、道路でも鉄道でもスムーズに移動できるようにすることが大事である。

○名古屋圏にとって最強の武器は「県営名古屋空港」である。このビジネス拠点空港は、グローバルな一大ビジネス拠点となるはず。名古屋駅と空港を結ぶ軸線が、北名古屋市を通っていることを看過してはいけない。

○西春駅から県営名古屋空港との間にBRT（バス高速輸送システム）の運行のための専用バスレーンを設けるなど、近隣市町と一緒に地域交通についての本格的な調査を行うことも必要ではないか。

問合せ　総務課